



校章のある外壁 (画: 高6期 澤田 作哉)

尚和会 会報

尚和会総会のごあんない

平成13年5月20日 (日)

ホテルアイボリーにて (豊中駅東口すぐ ☎06-6849-1111)

◆総 会……………オーキッドホール 12:00~12:30 (受付11:30~)

◆立食パーティー…………オーキッドホール 12:45~15:00

◆アトラクション…………●ジャズ演奏 奥村 豊& より かなえ
 〈友情出演 大森 秀斗史・高校17期〉

●お楽しみ福引

◆会 費……………4,000円 ('97年以降の卒業生2,000円)

奥村 豊& より かなえ《プロフィール》

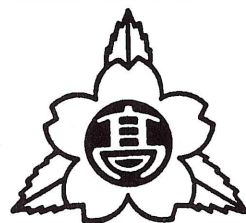
高校17期卒業、15歳からクラシックギターを習い上京後、潮先郁男氏に師事する。加藤登紀子、ボニージャックス等の多くのタレントのバックも務め、レコーディングに参加する。現在は、自己のグループを中心に洒落た大人のジャズをめざし演奏活動をし、また、作曲、編曲にも力を入れている。

よりかなえさんは、子どもの頃、のど自慢のオーディションを受けてスカウトされ、レコードシンガーになる。黒人ジャズピアニストDon Abney氏を師に持ち、現在、コンサート、ライブハウス、ジャズクラブ、ホテル等を中心に活動中。



2001

平成13年5月1日



発 行——尚和会

発行責任者 荻野哲男

編集責任者 田中 渡

// 安浦 杲



会長挨拶

尚和会会長

荻野 哲 男

昨年はミレニアムで明け暮れた一年でありました。

巷では、IT革命、ネットワーク社会が急速に進行しており、大変革期に入ろうとしています。

二十一世紀の幕開けの年である本年度は、尚和会も新世紀に向けて従来の概念にとらわれず、皆様の英知を結集して頂き、新生尚和会を構築していくことが肝要かと考えております。

現在、尚和会には成すべきことが山積しておりますが、本年度は新世紀のスタート年、原点に戻り一から同窓会の活性化に取り組んでいきたいと存じます。

振り返りますと、
一、十数年前より、それまで母校、尚和会議室等を中心に開催しておりました総会を、今風の立食パーティー形式で、アトラクションを取り入れての派手な総会に切り替えたと。

二、尚和会のサークル活動の一環として、名所旧跡を巡る会（バスツアー）を発足。

三、会則を大改正して、最高意思決定機関を総会から評議員会に移し、会の能率化を

図った。

四、母校創立六十周年に呼応して待望の東京支部が発足。

五、平成十年度から事務処理のコンピュータ化を業者委託で実施した。また、この業者委託に関連して、合わせて会員名簿の発行を、それまでの十年から五年に一回のサイクルにした。

六、平成十一年度から、会の財政改革の一環として会報の有料制を実施。この有料制については、過去三年間を振り返って見る限り、協力金等の倍増という好結果を生んでおります。会員の皆様には感謝申し上げる次第です。

さて、以上のとおり、会として成すべきことはそれなりに対応してまいりましたが、本年度は、前述しましたように原点に戻り、会の活性化を推し進めていこうと考えております。

まず、会則の本旨に則り、理事及び評議員の整理と充足、特に二十期生以降にその必要が大であります。また、このことに関連して、二十期生以降の同期会の開催を会として呼びかけていきたいと思

います。そのために同期会の開催を支援する助成金制度の確立が急務と考えます。

同期会開催の現状は、二十期生までは卒業二十五周年、三十周年等、五周年単位では徹底して開催されておりますが、二十期生以降についてはほとんど開催されていないのが実状です。従って二十期生以降の同期会の活性化を促



教育改革の中で

桜塚高校校長

関 谷 茂 紀

尚和会の皆様には各方面での上申がますますのご活躍、お慶び申し上げます。また、母校への常に変わらぬ温かなご支援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年、十一月十九日には東京支部第二回総会が誠に華やかに盛大に開催され、尚和会の益々のご発展に衷心よりお慶び申し上げますとともに、ご招待を頂き誠にありがとうございました。さらに、全日制三三三名、定時制五一名（内十名は通信制併修の三年間）の卒業生が新世紀の新年間）の卒業生が新世紀の新年間として入会されましたことと重ねてお慶び申し上げます。

さて、昨年は丁度この年度末に校舎大改修の仕上げの時期でしたが、今年は体育館床

すことは、何れ尚和会に縦の線として繋がっていくものと確信しております。

このほか、東京支部の支援等諸問題を抱えておりますが、会員の皆様の総意を結集し、新世紀の尚和会の発展を基本理念として課題の解決に取り組んでいく所存です。の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

千百名を超える中学生の皆さんが参加され、子ども達から選ばれた学校として今後も在らねばならないと感ずる次第です。

今、教育界は山のような課題を抱え、解決のための改革案が文部科学省から矢継ぎ早に出されています。大阪府においても同様、府教委は各校の特色を活かした教育が行われるよう改革を進めています。その概要は、「府教委ニュース」として、この二月から毎月一度教職員全員に情報

が提供されます。府民の皆様にも教育行政の取り組みの現状を知ってもらい、一体となって学校づくりを進めていく試みがはじめられることになりました。

その中から、幾つかを抜き出してみますと、
・府立高校再編整備と特色づくり：平成十一年度から「教育改革プログラム」を十年間で推進する。
・スクールカラーサポーターラン推進事業：特色ある学校づくりを支援する。

大阪府学校教育審議会へ諮問：「今後の後期中等教育のあり方について」
テーマ「生徒のニーズの変化等を踏まえた府立高等学校の全日制の課程及び定時制の課程等の今後のあり方について」

・連携型中高一貫教育研究推進校の決定：府立能勢高校、能勢町立東中学、同西

中学とする。

完全学校週五日制大阪府推進会議の設置：平成十四年度からの円滑な導入を図るため。

開かれた学校づくり推進事業：学校教育自己診断の実施と学校協議会の設置。学校運営の透明性を高め、保護者や地域住民の声を反映させる。

ハートケア・サポーター派遣事業：生徒の相談相手に臨床心理士をめぐす大学院生等を派遣。

スクールカウンセリング・スーパーバイザー配置事業：学校の教育相談体制の充実を図る。

教職員の資質向上方策について：府教委に検討委員会を設置。

知的障害のある生徒の高校受け入れ研究：府立四校で受け入れ体制や教育内容について五年間ほど実践的研究する。

IT教育の推進：校内LANの整備とインターネットを活用した授業の展開等を進める。

学校情報ネットワーク整備事業：府立全高校の図書館に情報通信機能を付加し、府教育センターを核とするネットワークを構築する。

体験入学推進事業：中学生自らが学校選択できるよう、体験入学の取り組みを促進する。
学校支援人材バンク活用事

業：学校教育において地域や社会の人材の活用を図る。

以上簡単に紹介いたしました。が、これらの事業を学校は校長のリーダーシップの下に、全教職員一丸となって受けとめ、よりすばらしい教育環境の整備を図らねばならないと思います。それには、これまでの方々に囚われず保護者や府民の皆さんの声に耳を傾け、広い視野でこれからの高校教育を考えていくべきではないかと考えます。社会の変化の激しい中で学校だけが従来のものであっても良いは

ずはなく、いかに対応していくかが大切です。以前は学校から教育委員会への要望が流れとなっていたように思いますが、今は逆の流れのようである学校の対応の身軽さが重要です。尚和会の皆さんや地元の方々の本校への信頼を大切にして、新世紀に遅くはばたく桜塚高校、創立百周年を盛大に迎えられる桜塚高校を目指していききたいと存じます。今後ともよろしくお願

いいたします。

伝統を引き継ぐ 新たな高校を目指して

全日制課程教頭

鳥越 克明

この一年間、尚和会の様々な会合に参加させていただき、多くの方々とお話をすることができました。また、様々な行事で、講師の方などにお話を伺うと、ご本人や身内の方が桜塚高校の出身であるなどの話がよく出てきます。そのようなことを通じ、桜塚高校の伝統の重みを感じました。高女一期の方から、高校一期の方そして最近の卒業生の方まで多くの方が尚和会の様々な活動に取り組みまれておられます。社会の様々な分野で活躍されている本校の卒業生の方のお話を聞くこともで

きました。桜塚高校の周りには、何世代にもわたって桜塚高校を愛し、桜塚高校とともに歩んでこられた非常に多くの卒業生がおられることに感動しました。今この学校に職員として、桜塚高校のよき伝統の中にいるのだと、実感しました。今、学校は教育改革の大きな波の中にあります。生徒、保護者、府民の方々の教育に対する願いを実現していくことができる学校の創造が求められています。中央審議会十五期第二次答申の中で、「教育は『自分さがしの旅』を扶

ける営みと言える。子どもたちは、教育を通じて、社会の中で生きていくための基礎・基本を見に付けることも、個性を見出し、自らにふさわしい生き方を選択していく。子どもたちは、こうした一連の過程で、試行錯誤を経ながら様々な体験を積み重ね、自己実現を目指していくのである。」「自分さがしの旅」を支援していくとき、卒業生の方が、どんな職業に就き、どのように努力し、どのように活躍しているのかを知ることが、生徒にとって非常に参考となるでしょう。

これからの学校教育では、学校をより開かれたものとし、外部の様々な人材を学校教育に活かしていくことが求められています。社会のいろいろな場で活躍されている諸先輩の話を聞くことは非常に有益で、生徒も興味深く聞くことができるでしょう。授業の中で、尚和会の会員の皆様の協力が得られればと考えています。また、体験的な授業を行う中で、卒業生の方々の職場に、本校生徒がおじゃますることになるかもしれません。桜塚高校では、ホームページ等を通じて学校の様子を公開し、様々な情報を提供することにより、卒業生の方にもより親しみのもてる学校にできたらと考えています。将

来は、卒業された方が再び学校を訪れ、新しいことを学習したり、社会で培われた知識を、学校教育に役立てたりする事が、平常の事になるかもしれません。今後ますます尚和会の皆様のご協力を頂く機会が多くなると思います。尚和会の皆様を通じて、桜塚高校の伝統により、活動の場が広がることと思います。様々な卒業生の方にお話を伺うと、自分の出身校に対する誇りを抱いておられることが伝わってきます。自分の

多様な定時制教育に思う

定時制課程教頭

宮西 重久

卒業した学校にいつまでも誇りを持てるというのは素晴らしいことです。このような意識が今後卒業していく本校生徒諸君に引き継がれるよう、一層すばらしい伝統をもった学校にしなければと考えています。

私も桜塚高校の伝統を新たに築いていく人材を育成するために、微力ながら努力していきたいと考えています。今後とも、皆様のご協力をお願い申し上げます。

美しい夜桜を見ながら本校に勤務して、早、三度目の桜の季節になりました。平成十二年度は、募集定員に十二名足りない一〇八名の志願者がありました。一年生の在籍数は現留生を含め一四四名、二年生は九十一名、三年生七十二名、四年生は五十名の全校生三五七名のスタートになりました。今年も府内では名実ともに大規模校で多様な生徒の皆さんが、夜校の下で学校生活を送りました。

全国的に教育改革が叫ばれている中、定時制教育も年々実態が様変わりしています。府の定時制の生徒の実態をみると、パート・アルバイトや家業も含め、全く仕事を

していない生徒は昭和六十年は一六・七%だったのが、平成十一年には三六・九%まで増加。逆に事業所で働いている生徒は五一・三%から一五・六%まで減少している。このことは、ほかの高校を中退したり不登校になったりした生徒や生涯学習で利用している社会人が増えていっている析されている。本校も同様、勤労青少年の時代から、年々増々、多様な生徒たちの自分探し場となってきました。ところで、生徒の皆さんは本校をどう思っているのか、一部の生徒の皆さんの「私の満足・不満足」を紹介します。

A、四年男子「定時制高校で生活をして、忍耐力がついた。自由な雰囲気は良いがもう少し厳しくてもよかったのでは。」

B、四年女子「先輩の友達が多かった。パソコンの授業をもっとしたかった。」

C、三年女子「他の友だちから外されることがない。(中学校時代はあった。)」

D、二年男子「年齢の違う人と会えてよかった。」

E、一年女子「自由な校風、ピアス、化粧、茶髪ができる。先生から『君はやつたらできる』と声をかけられうれしかった。冬、大変寒いのでストーブを二台にしてほしい。」

F、一年男子「若い生徒を見たががんばらなくてはと思う。いろいろあるが世間見えてくるから現状でよい。規則を守らない生徒を叱り付けたが言うことを聞かない。家庭の仕付けが問題では。」

生徒の皆さんの満足・不満足がたくさんあり、今後の本校の教育改革に活かしていきたいかなと思います。

さて、この二月に四年制課程男子二十二名、女子十九名、三年制定通併修課程男子六名、女子四名、合計五十一名が晴れて卒業し、尚和会のお仲間に入れていただくことになりました。よろしくお願

◆学校だより◆

進路状況報告

現役志向、
より鮮明に

進路指導部 越智 秀樹

昨年の進路状況は左表のとおりです。現役生、浪人生とも昨年に引き続き健闘しています。(卒業生一クラス減)二〇〇〇年入試での特徴的なことは、現役志向が一層顕著になってきたことです。男子でいえば三年前四割強であった浪人が二割弱と半減しています(30名強)。これは、生諸君の合格への努力はもち

ろんですが、一方で不況が続く厳しい社会情勢と、入りやすくなってきた大学入試にも一因があるようです。ただ、進路指導部としては、大学入試(生)のレベルダウンが話題となっている昨今、五年後、一〇年後の「大学の社会的評価」の変化を考えると、安易な形で現役合格増を喜んではばかりはいられないことも事実です。(以前は浪人生が関関同立大など難関大に相当数合格していたが、その激減に比例して浪人合格者数は減る見通しで、現浪合わせた合格数は変わらず、といったところ) こうした状況の中で、幸い現役生徒諸君は高い目標を

持つて入試に挑戦してくれています。ここ三年の国公立大、関関同立大への実進学者数はグラフのように割合が徐々に増えています。この傾向は今現在結果が判明しつつある今春入試でも顕著に現れており、結果が未判明の立命館大を除く関関同大で現役合格、計60名となっています(関学19、関大36、同大5)。国公立大にも88名が計174大学に出願するなど、積極的に自己の可能性を追求する気概を持って取り組んでくれています。またグラフに見えのとおり短大志望者が減少し、四大、専門学校進学者が増加して、より将来の

職業を視野に入れての選択をする傾向が見えています。進路指導部としては、今後とも、一年生の段階からキャリアガイダンスなど進路学習を充実させること、ひとり一人の意欲を掘り起こして本音の進路希望を大切にしたい進路指導を目指していきたいと考えています。

通じてさまざまな行事がありました。春の遠足、球技大会運動会や文化祭。なかでも私の心に深く印象に残っているのは三年生の最後の球技大会で二チームを編成し、私のクラスが優勝・準優勝を共に飾ったことです。行事ごとにクラスが一つとなって力を合わせ、少しずつクラスの和ができたことがとても嬉しく思いました。何かの目的を皆で一生懸命やる喜びを今でも忘れません。

どの想い出もとても美しく輝いており、この桜塚高校を巣立つ寂しさを募らせません。その思いを胸に私達は明日からそれぞれの道を歩き始めます。

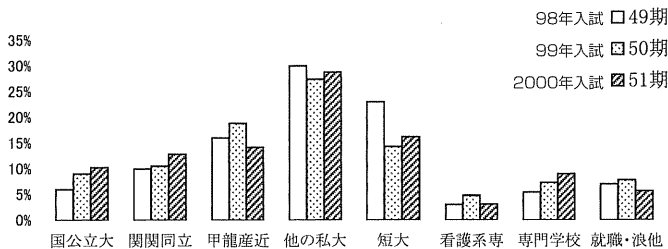
卒業生進路状況

(最近3力年合格状況)

設置など	入試	98年入試			99年入試			2000年入試		
		現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
4年制大	国公立	12	15	27	23	25	48	18	17	35
	関関同立	33	59	92	39	44	83	33	59	92
	産近甲龍	100	72	172	82	74	156	84	40	124
	他私大	293	144	437	201	59	260	193	55	248
短大	大 学 校	0	1	1	0	1	1	0	0	0
	国公立	1	2	3	0	1	1	4	3	7
	私立	194	6	200	121	1	122	88	6	94
	専修学校(看護系)	14	2	16	14	3	17	22	3	25
	専修学校(他)	26	0	26	33	3	36	26	5	31
	就 職(公務員)	6(2)	2	8(2)	5(2)	2(1)	7(3)	4(3)	0	4(3)

決定進路先の3年間比較

(現役時十一浪時)



定通併修制の
課程修了にあたり

併修制一期 矢野 和美

思えば三年前の春、希望と不安を胸にこの桜塚高校の門をくぐった時は三年の月日がとても永く遠い先のように感じましたが、今ではその三年があつと言う間に過ぎ去った気がします。そして長いようで短かった高校生活もいよいよ今日で幕をおろそうとしています。

今日ここに卒業式を迎える者、皆それぞれの思いで入学してきました。そして、私達通信制の中でも受験に失敗し、不況の中私学に行けずに入学してきた人、他校から編入してきた人、そして私のように数年前に高校を中退し、一度社会に出て、その社会の厳しさを知り、せめて高校だけは卒業しなければという思いで来た者と、それぞれ理由はさまざまですがここに居る殆どの仲間が、昼は働き、夜は学校で勉強をするという生

活を続けて参りました。私自身、高校を中退してから十年もの歳月を経て入学してきたものですから、勉強について行けるのだろうかとか、若い人達と旨くやっていたいけるのだろうかとか、希望よりも遥かに不安のほうが大きく、入学することが私にとって一大決心でした。

その日々の中、私達はこの三年間で他では体験できない大切なことを学びました。この定時制という限られた短い時間の中でも、年間を

※定通併修(三年制)コース

卒業に必要な単位の一部を通信制で修得し、三年間で卒業できるコースで今年第一期の卒業生となります。

○クラブだより○

ラグビー部

顧問 渡辺 宗治郎

生涯スポーツが話題になる昨今、各種目を持つ魅力が変化している。英国発祥の伝統で築かれ、独特のスピリッツを堅持してきたラグビーも例外ではなく、若者気質と時代に合ったルールの変化で昔のそれは消失してしまった。毎日、地道な反復練習を積んで「花園」を目指す、いわゆる「ラグビー漬け」は御法度である。

適度な時間と適度な強さで部活に触れる楽しい活動が主流になっている。

また、ある側面では学校の自治会や、部のOB会で支えられてきた部活動そのものの運営が消失する危機にきている。

これまでの学校を取りまく様々な環境が大きく変わり、現体制を推進し、維持することは消極的方策にすぎない。新たな組織作りを考えて、青年期の重要なスポーツ活動を保障していく工夫が急務であらう。

この現状にありながらラグビー部存続と公式試合出場をかけて、新入部員確保に全エネルギーを注がねばならない空しさを感じるのはラグビー部だけの問題ではないだろう。

サッカー部

顧問 山口 守

H5年、近畿大会出場。桜塚高校サッカー部の黄金期である。ここ十年ほどの間に、近畿大会以上に進出した大阪の公立高校は、わずかに十数校に過ぎない。しかもこのときのチームは、練習内容などを部員が工夫していたそうである。当然ながら、クラブ活動を統率していた篠田先生の指導力と、部員全員の高い目的意識がもたらした結果であると言えるだろう。

ところが、昨年私が本校に着任したとき、この自主管理の伝統はマイナスの方向にしか働いていなかった。部員個々の意識が低いために、試合の結果を正確に分析できない、したがって、適切な練習を組み入れることができない。また、クラブを管理運営するに当たっても、「甘え」が全体を支配しているといった状態だった。

夏休みの終わりから始まる全国大会の予選が終了し、三年生が引退したところで、この状況を打開するためにも指導の必要があるのではないかと部員に聞いてみたところ、全員が希望するというところで指導を開始した。

それから一年半が過ぎたが、なかなか部員たちの意識は変わらない。自身の指導力のなさを痛感するところであ

るが、本質的に自分たちの学生時代と、大きく違う点がたくさんあるように思う。プレーの問題点を指摘されても、なかなかそれが練習に反映されない。聞き流しているのではない。だが、話を聞くと一言のことと、プレーすることが、根本的に結びついていない。今の子供たちの「聞く」力の低下を痛感する。

今現在、サッカー部はまだまだ冬の時代を抜けきっていないといえる。単純に試合の勝敗だけを見れば、少しよくなってきた面は認められる。しかし、スポーツを通じてよりよい人格を形成していくというようなレベルにはほど遠いと言えるだろう。

桜塚高校は、いわゆる「荒れた、授業成立の困難な学校」ではない。しかし、世間で話題になっている「自分勝手さ」「根気のなさ」「社会性の欠如」といった、青少年の諸問題は、この学校の生徒にも、根本的には内在している。そうした中、クラブ活動こそが、そういった青少年の諸問題を解決する鍵を握っているのではないかと、深く実感する思いである。

決して諦めることなく、辛抱強く見守りたいと思う。

ソフトテニス部

顧問 上山 望

「生徒の生徒による生徒の

為の部活」これが桜塚高校ソフトテニス部の現在のモットーではないでしょうか。

練習の時間とり、練習内容・方法等全面にわたって生徒同士で進められています。顧問は……という、じゃまにならないように（しているつもりだけれど）若いエネルギーの爆発をそっと見守っているだけです。和気藹々の練習風景、それでいて、（いや、そうだからこそ）結構強い。

中央大会の出場は常連だし、昨秋にはブロックで団体優勝も達成できました。

もちろんこの背景には生徒達の創意工夫、目に見えない所で一人ひとりの努力・情熱が在り、それがあつての賜物と心得ています。

『気は優しく、力持ち』そんな感じのクラブです。

男子バレーボール部

顧問 伊藤 将史

平成12年の6月から新チームになり、現在、男子バレーボール部は2年生8名、1年生10名、マネージャー4名で活動しています。全日本チームが、シドニーオリンピックに男女とも出場できなかったことや、相づく企業スポーツの廃部などが重なり、バレーボールの人気低迷の時期ですが、部員の数には困らず、日々練習しています。

しかし、中学校でバレーボール部がない所が多く、部員の中に経験者がいないという現状ですので、近畿大会出場という目標も厳しいところがあります。そんな中でも、部員達の「強くなりたい」という意欲は強いものがあり、一人一人の個性もバラエティに富んでおり、何か光るものも持っているのです、それだけの力を向上し、そして発揮すれば、目標達成も夢ではないと思っています。

さて、試合の結果の方は、夏休みに大阪府立高校大会があり、昨年は3位になった実績もありました。なんとか予選は突破したものの、本選では一回戦敗退でした。

11月になると1〜4部に分かれて行う部別大会がありました。先輩達のおかげで1部にいたので、何とか「残留」を心に誓い試合に臨みました。抽選は悪く、4チームのリーグ戦で、その内2チームが全国クラスの清風高と上宮太子高でした。もう一つが八尾高でしたので、その試合に全力を尽くしました。しかし、結果は負けしまいました。試合内容は良かったのですが、要所要所で相手の方が格上でした。結局、他の2試合も負け、2部降格という残念な結果になりました。

次の春の高校バレー（大阪予選）も、大阪学院を相手に一回戦敗退してしまいました。

結果だけ見れば、負けてばかりですが、試合ごとに部員達が成長しているという実感が持てる試合内容です。まだまだ強くなるはずですので、後輩達のためにご指導をよろしく願います。今後のバレーボール部の活躍に期待しておいてください。

女子バスケットボール部

顧問 高橋 俊行

大阪の高校女子バスケットボールチーム登録が205校から180校程に減っている中、この数年ベスト8からベスト16程度を保っています。あまり苦しい事、しんどい事をやらない今どきの高校生の中で、女子バスケットボール部の部員はあえて挑戦しており頑張っています。2月に行われた新人大会の公式戦で、ベスト8をかけた試合では残り10分で25点離されたにもかかわらず、キャプテン中心に底力を発揮し、1点差まで詰め寄った執念はすごいものがあり観客からも大きな拍手をもらいました。

これを誇りに、これからも頑張って練習に励んでいこうと思っています。

〈新人大会の結果〉
二回戦 桜塚122―25淀商
三回戦 桜塚42―33春日丘
四回戦 桜塚57―49成蹊
準決勝 桜塚42―47豊島
三位決定戦

陸上競技部

顧問 松下 勇

桜塚 39—32 千里
中央大会
一回戦 桜塚 48—45 泉北
二回戦 桜塚 69—70 芥川

部活動への参加生徒が年々減少している昨今、ボールゲーム主体のチーム部活に比して、鍛練の傾向の部活の人氣は薄く、陸上競技部も多分に洩れず、各学年十二、三名程度の部員数で細々と活動している。

活気に不足しているが、その中でも部員は、自己の記録への挑戦と、技術の向上を目指して、毎日地味な活動を続けている。

本年度の主な競技成績を挙げると、地区予選を突破して、中央大会へ進出した種目数でみると、インターハイ、総体ともに例年どおりで九種目十名であった。

中でも、昨年の秋、近畿総体に出場した「永野哲郎君」は、近畿インターハイに出場し、準決勝まで進出し、組み合わせが運悪く、一分五七秒〇二の記録で四位に終わり、全国インターハイへの夢が閉ざされてしまったのは、残念な結果だった。

その他、本年で十六回を迎えた豊能地区八校大会では、昨年に続き、総合優勝及び男女の優勝と、男女の最優

教養部

教養部長 安川 晶子

秀選手共に本校の、「中瀬史人君」と「佐竹麻希さん」が選ばれ、兩人共来シーズンの活躍が期待されます。

本校教養部は図書館の運営全般、芸術鑑賞、生徒図書委員会の指導、視聴覚関係の仕事を担当しています。

今年度芸術鑑賞は、第二次大戦中、六千人のユダヤ人にビザを発給し、その命を救った当時のリトアニア大使、杉原千畝さんの劇「センポ・スギハアラ」を鑑賞し、好評を博しました。

また二月に行われたオープンスペースでは生徒の希望も取り入れ、臨床心理士の山中祥匡先生をお招きし、多数の生徒が参加する中、活発な質疑応答がなされました。

生徒図書委員会の活動に關しては、本委員会は日々のカウンター当番や蔵書点検以外に本の問屋への買い出し、文化祭古本市、文芸誌「咲楽」の発行、オープンスペースの企画・運営、「としよかんニュース」の発行など幅広い活動を行っています。

どの学校でも文化クラブが低調な折、これら生徒の自主的な活動の意欲は頼もしい限りであり、これからもその持てる力をできる限り引き出し、伸ばしてやれたらと考え

野球部、その後

監督 和田 充司

最後に来年度は図書室にインターネットのできるコンピュータの導入が予定されており、図書館の担う役割も時代に応じて変化していくことと思いますが、常に生徒及び教職員にとって利用しやすい、ベストなものを提供できる図書館でありたいと思っています。

三年前に北大阪大会の決勝に進出して以来、同窓生の方から「見てましたよ」とか「惜しかったですね」と声をかけていただくことが度々ある。あらためて多くの方が応援して下さっていることに感謝すると同時に、テレビというメディアの力を実感させられる。

そのテレビ中継の影響かどうかは定かではないが、昨年の春は、三十名以上の一年生が大挙入部しマネージャーも含めて総勢七十余名の大所帯となった。一方で、グラウンドその他の練習場所の面積は（当たり前だが）広がるわけでもなく、なおかつ、全定併設校であるため、練習時間についての制約も従来どおり（五時半下校）で、いかにして限られた時間とスペースを有効に使うかというのが、目下のところ、最大の悩みとい

つてよい。最近では、部員数の確保に頭を痛める学校（特に公立高校）が多い中で、嬉しい悲鳴というべきなのだろうが。

昨夏の全国大会優勝校、智弁和歌山高校は、聞けば、少数精鋭主義で、恵まれた設備と豊富な練習量の中から、あのような強力なチームを作り出したとのことだ。丁度、われわれのチームはその対極に位置しているといえるかもしれない。かといって手をこまねいて、すごいな、うらやましいな、と言うばかりでは埒があかない。それどころか、その様な私立実力校を一公立高校が打ち負かすことが、高校生の野球の醍醐味であると思

私は思う。様々なハンディキヤップはあるにせよ、それを乗り越えることのよここびはまた格別である。部員達には、うちのようなチームが、強豪校に勝つにはどうしたらよい

か、と常に問いかねながら、日々の練習に取り組んでいる。さて、そんな中、昨年の公式戦の結果としては――

①秋季近畿大会予選。府大会準々決勝まで進出した（もう少しでセンバツに手が届きそうな位置）が、飛翔館高校に4対1で敗退。

②春季近畿大会予選。四回戦で豊中高校に5対0で完敗。秋の結果によって、チーム内に明らかに奢りが生まれていた時期だった。

③夏の全国高校野球大会予選。二回戦で履正社と対戦。春の反省と、そして願ってもない強豪校との対戦という意識のもと、チームとしては最高に充実して迎えた試合だったが、結果は7対1で無念の敗戦。

④秋季近畿大会予選（新チーム）。初戦で金光大阪に10対3でコールド負け。というわけで、私学の壁は厚い。同時に、自分たちの中にも、まだまだ甘さがあつたにちがいない。

新たなシーズンを迎え、今年こそは、の思いが部員たちの大声となって、今日もグラウンドに響いている。

女子バレーボール部

マネージャー 淀 直子

私たち女子バレーボール部は、最近目立った戦績を残せていませんけれども、毎年近畿大会を最終目標とし、それに見合うだけの練習をしていると思っています。体育館内では、できるだけボールに触れ、自分にしかできないことを探し出し、それを達成させるように日々努力し、常に今に満足せず上に、さらに上にと自分を高めるようにしています。体育館の使えない日は筋力トレーニングを主としたメニューをこなします。ラニング・なわとび・腹筋・背筋・腕立て伏せ。まだまだ

あります。冬季限定ですが一時間走もあります。

はつきり言ってしまうえば『しんどい』です。練習後疲れきっているにもかかわらず五時半までに校内から出るために走り回らなければいけません。合宿もあります。3月の末に、八チ高原に行きます。早朝練習・朝食・朝練・昼食・昼練・夕食・夜練またはミーティングという繰り返し五日あります。体力的にも精神的にもつらいのは確かですが、終わった時、ひとまりもふたまりも成長することができま

す。私たちはこれからも桜塚高校の名に恥じることのない、意味のある活動をするために努めたいと思います。

◆平成十三年度◆
◆学校行事案内◆

〈全日制〉

体育祭 六月 七日（木）
文化祭 九月十二日（土）
午後

二三日（日）
全日

〈定時制〉

文化祭 十月十六日（火）
十七日（水）

鐘のひびき

恩師の残照

高女二期 北川 富美子 (木本)

ながら、素晴らしい先生方に、薫陶を受けた仕合わせを感謝しつつ、心から別れを惜しみ、ご冥福をお祈りする。

厳冬に師の星一番輝けり
水仙や背のまつすぐに
師を偲び

師を偲び

いつしか年も
すぎの戸を

化学科 赤羽根充男

新世紀を迎えて、キリスト教でない私には、なじみのなかった、ミレニアム(千年紀)という言葉覚えて。毎夏お盆に迎えた先祖の霊を送る伝統行事である、京都大文字五山の送り火が、大晦日に行われた。それにつけ、しみじみと思った事は、去年、今年のお正月にかけ、豊中高女での、恩師を次々と、お見送りしたことである。

私が努力してきたことは、「授業を通じてともに生き方を考える」、具体的には自分の実生活やボランティアそして化学研究会での体験を化学の授業で伝えることでした。

宇野量介先生。東北工大教授、宮城県教育長を歴任され、文学史的研究で、多くの著書を残された。

中山与志夫先生。全国自治体首長最高齢で、昭和三十三年より、新潟県朝日村村長として、郷土芸能「大須戸能」の保存に尽くし、吉川英治賞を受賞された。

菅千代子先生

岡本照子(山田)先生と、ご高齢とはいえ、立派な人生を全うされ、永久に旅立って逝かれた。

節目の日には、男の先生は、ネクタイに背広、女の先生は、和服に袴姿で、背筋をぴんと伸ばした面影を偲び、明朗、敬虔、奉仕の精神を教えていただいた遺徳を、今更

桜塚高校に赴任してからもう二十七年が経ちました。教師生活三十七年光陰矢の如し、無我霧中で過ぎてしまいました。

私が努力してきたことは、「授業を通じてともに生き方を考える」、具体的には自分の実生活やボランティアそして化学研究会での体験を化学の授業で伝えることでした。

話したかどうか疑わしいものです。苦労したことは、「受験の化学」と「身近な化学」のバランスの取り方でした。年々理科嫌いが増加するなかで、いつも時間に追われながら、少しでも興味を持つてもらおうと、無駄話と物質の見本を工夫したつもりです。

楽しかったのは、修学旅行や文化祭等の学校行事、そしてクラブ活動で気さくに皆さんと付き合ったことでした。教室では見られない生徒の別のいい人柄に出会って、教師冥利に尽きます。

クラブ顧問は美術部、陸上部、化学部、科学部、手話サークル、ダンス部をさせていただきました。本当の意味で「化学」を教えたのは、科学部でした。生徒が環境問題を早い時期から取り組み、その成果を年々発表してきました。計画し、研究し、発表する。この過程が青年にとって大切と考えます。これを経験した卒業生が、多くの分野の第一線で活躍されておられるのが嬉しいのです。

インターネットでホームページを開いています。Yahoo等に「赤羽根充男」で検索して下さい。私に会えるでしょう。

このたび、一身上の都合で定年1年前で退職させていただきます。皆様と良いご縁がありまして、これまで大過なく勤めてこれましたことを心から感謝申し上げます。

皆様のこの発展とご健康を、そして桜塚高校同窓生の栄光永久ならんことを祈っています。

中山与志夫先生
追悼の辞

高女二期 川口 浜子

日本一高齢の首長、そして日を改めて本葬の日時を新聞で報ぜられて私は間違いないかと卒業以来先生の御近況を御存じか同窓のSさん

に問い合わせたところ、三月六日の朝日新聞(夕)に惜別の記を知らせて下さって私達生徒も長命でないにしても先生の様に有意義に生きたいです。すねと今日しみりと御返事をいただいた。

(部厚い女文学の講読や正座を御指導下さった)故二代目校長の御舎弟と承っていた国語と書道を教わったお蔭で作文には励み、特にひらかな書きの妙味を会得することが出来ました。先生まことに有難うございました。

百歳こそ迎えられることは出来ませんが、御幸せな御生涯であつたのではと存じ上げます。謹んで合掌申し上げます。

ハンドボール部

高二十期 本村由利子

高校時代の思い出と言えば部活の事が頭に浮かびます。

試合に行つたとき、ユニホームがなく、故山口ウメ子先生が体操服の背中に赤いチヨークで背番号を書いて下さり『突っ込んで！突っ込んでシュート！』とベンチから仁王立ちで大声の檄が飛んで来ました。他の学校の人はちゃんとしたユニホームを着ていて、とても羨ましくて仕方ありませんでした。ウメ子先生にお願ひして初めて作つても

らったユニホームは白とグリーンの二色のワンピース程の丈の長いものでした。一度洗濯をすると幅がきゅつと縮み、白がグリーンに染まり境目が無くなってしまいました。カッコいいユニホームが夢で、先生に再度お願いしたところ予算がないので、自分たちで先輩の所へカンパに行くように言われ、あつちこつちにお願ひして回り、今でもはつきり覚えている素晴らしいユニホームが出来たときは本当に嬉しかったです。

つづれかけの尚和会館での合宿。ナイターの中での練習。高女の大先輩やバリバリ現役の先輩の厳しいご指導。夏の厳しい暑さの中での練習と砂だらけのタライの水。あんなに美味しいお水は、ありませんでした。今では、ボールのほうが上ですが……。

どれもこれも、本当に楽しい青春時代の思い出です。練習は、つらい時もありましたが、お蔭で体力と精神力が付き少々のことではへこたれない自信があります。

これからも、頑張りたいと思います。



平成十二年物故者名

(平成十二年一月一日、平成十三年一月三十一日まで)

旧職員

菅 千代子	12	・	・
藤本 勝次	12	・	2
松井 達雄	12	・	3
中山与志夫	12	・	8
宇野 量介	12	・	8
井岡 誠久	12	・	8
岡本 照子(山田)	12	・	10
田原 郁子(井爪)	12	・	5
松原 和子(古屋)	12	・	10
女七期 勝本 昭子	12	・	5
高二期 河村 雅子(保野)	12	・	2
高三期 北垣 育子(城谷)	12	・	1
高五期 黒川由美子(佐竹)	12	・	2
植田 隆久	12	・	5
森田 宣男	12	・	12
高八期 壺井 秀夫	12	・	7
高十期 平林世紀子(板垣)	12	・	2
高十一期 本田 英紀	12	・	4
亦野 寿一	12	・	・
高十四期 白井 邦子(吉田)	12	・	3
高十六期 山本 武也	12	・	12
辻 洋子(高橋)	12	・	12
田中 睦子(池田)	13	・	1
高五十一期 住田 雅則	12	・	1
	25	・	25

(尚和会宛に報告のありました方のみ掲載。)

同期会報告

高女一期生だより

豊島恵美子
太田 裕子

今年の格別きびしい暑さを耐えぬいてやつと訪れた秋、平成十二年十月二日に同期会を開催しました。会場は、少女時代の思い出深い宝塚にと、グランドホテルで三十八名が集いました。高齢となった今、体の不調で出席できない友も多い中、毎年お見受けする顔ぶれが多く、先ず「あんな元気？」と声をかけ合って賑やかに始まりました。

仮校舎時代から手塩にかけていただき、特にご縁の深かった恩師宇野量介先生が、平成十二年八月二十三日、九十一歳の天寿を全うされてご永眠とのご報告があり、先生のニコヤかなお顔を思いおこし、ご冥福を祈りました。

武庫川に面した明るい部屋にお料理が並べられ、談笑しながら自己紹介もはじまり、大いに盛り上がりました。お話が尽きないうちに時間オーバーとなり、名残を惜しみながら閉会となりました。

超高齢に達した私たちです。くれぐれも健康に留意し、一日一日を大切にしながら、また来年、元気にお会いできますよう祈っております。

先生方はご高齢なので、



名もなき草の如く生き来て 幾星霜
亡母の齢を超える日近し
新しき 世紀に賭ける
ほどのもの
無きさみしさよ 七十八齢
純子

高女四期生会報告

杉原 笑子
古銭 孝子

平成十二年五月二十二日
(月) 宝塚温泉、ホテル若水・大観の間で同期会を行いました。

今年はお出席者四十八名でございました。遠く北海道旭川市や大分県宇佐市より出席された方や、卒業以来五十五年ぶりに初めての方が岡山からこられたりして大にぎわいの同期会となりました。

おいしいお料理をいただき、時間ゆめと喫茶室でくつろぎ、時間のゆるす方は温泉にも入り楽しい一時をすごし名残を惜しみながら散会いたしました。

当日出席されました北村(島津) 明子様の句です。
旧姓で よびあう友や 風薫る

今年の同期会の幹事の角山(美安) 照子様が十一月に突然亡くなれました。亡くなられる二、三日前まで、お元気にしておられ、同期会の幹事引きつぎの件でお電話しておりましたのにそのあとすぐ訃報をうけて、びっくり致しました。

前後致しますが、九月八日に小島(石渡) 和子様がお亡くなりになりました。遠く仙台市で東北大学の教授として居られ翻訳者としても名著を出され、ご活躍でしたのに

惜しまれます。

心よりご冥福をお祈り致します。来年度の幹事さんは島村様、田畑(伊藤) 様、豊田様がお引き受け下さいました。

来年も大勢の皆さんさまお元気でご出席下さいませ。



高女五期生会

幹事一同

平成十二年五月十八日(木)、尼崎市JR尼崎駅前ホテル「ホップイン」アミニングに五十七名の出席者を迎えて開催されました。今回は駅前再開発により大変便利になったJR尼崎駅前の利用と新設されたホテルでの集まりでした。



幹事は芦屋・西宮・尼崎在住の十一名があたり、今までとは少し変わった趣向にという意見で、開会直後に一時間の講演会を持ちました。講師に大阪脳神経外科病院顧問の吉田芳子先生を迎え、「私たちの新世紀」と題してとても解り易く、ユーモアも交えて「活き活きパワーはやる気から、今日一日の充実感を明日につなごう」等々、最後には「ボランティアの歌」を若々しく美しい声で歌って下さり、同年齢とは思えぬバイタリティーに一同感激致しました。その後写真撮影、別室にて食事に移り、旧交を温めながら歓談し定刻二時に次回の会合を約しながら解散。次回は約一年後に京都在住の方たちによる開催が予定されております。

四十二年目の同窓会 定時制七期

幹事 川勝 義美
田村 裕子
村上 幸一

平成十二年十一月十二日、秋深まりゆく琵琶湖畔の、「かんぽの宿・彦根」で七期生の第十回目の同窓会を開催しました。最近では二年に一回、幹事を交代しながら開催しています。会の名前も「桜灯会」。名付け親はIさんです。卒業してから四十三年目を迎えるメンバーにふさわしく、琵琶湖は落ち着いたたたずまいで、私達を迎えてくれました。伝統漁法の一つ、吟(えり)をアクセントにして輝く湖面、紅葉に映える彦根の城下町。そして何よりも、皆の心を浮き立たせたものは、お互いの元気な笑顔でした。毎回二十名前後の参加者で、メンバーも固定しかけていますが、それでも珍しい顔が飛び込んで来たりして、座が賑やかになります。久しぶりの会って、一瞬分らない顔も、話し出せばたちまち昔の学生時代に因るから、不思議です。お招きした寺本先生を中心に、話の渦が次々に起こり、皆がそれに巻き込まれ、なつかしくも楽しい彦根の夜は更けて行きます。



執り行われ、桜灯会（第七期生）から平成十二年度に、尚和会、副会長に就任され、また、現・定時制課程振興会会長、岡島勇氏も桜樹会の帰りに合流され夕食時に、最近の尚和会の現状ご報告も併せてお聞かせくださり、日頃のご尽力を厚く御礼申し上げます。

高五期生・二〇〇〇年記念同期会報告

開催日：二〇〇〇年九月十日



翌朝は秋日和。色づく湖東三山を背に、石田三成の居城があった佐和山を、彦根城の天守閣から眺めたり、第四代藩主、井伊直興が造営した玄宮園を散策する間も、笑い声は絶えません。玄宮園内の築山に建つ茶堂、鳳翔台で、正座して飲んだ薄茶の味は、「桜灯会」のきずなを、より深める味わいでした。

「老いは幸運の果実である」

同窓会から二日後、Hさんから頂いた礼状の中にあつた言葉です。集いを通じて、私という果実に、甘味が増しました、というお便りでした。今思えば、参加者全員が、芳醇な甘味を増やしていた。そんな彦根の二日間でした。

また当日十一月十二日（日）朝から桜塚高校尚和会役員OB会・桜樹会バスツアーにて三万五湖一周懇親会が

七日（日）

会場：心齋橋 大成閣
参加者：五十八名（うち初参加者五名、遠隔地参加者六名）

お陰様で盛會裡に無事終わり、厚く御礼申し上げます。アンケートのご回答で、毎年開きたいとのご要望も多く、五月の尚和会総会に出席の皆さんで相談の上、改めてご案内させていただきますので、その節はよろしく。

五期生世話人一同

写真は二次会場での撮影につき、出席者で写っていない方々もおられます。

高校卒業四十五周年パーティーの報告

高七期 磯 京子

尚和会の皆様には、ご壮健の事とお慶び申し上げます。

私達七期生は、昨年卒業四十五周年を迎え、記念パーティーを開催いたしました。

昨年五月にオープンしたホテル「モンテレー」で建築中から予約し、八月五日（土）PM1時よりお洒落な、真新しいホテルで総勢104人の出席で大盛會になりました。

九州や山形県からも馳せ参じて下さり、ホテルのサービスで宿泊も格安、お料理も和洋折衷で、何もかも予算通りに

雑感

第六回「在宅福祉を支える友愛活動」全国交流集会(財)全老連主催

高女二期 越水 ユリ

二〇〇一年一月二十三日・二十四日、千葉県浦安市・新浦安オリエンタルホテルにおいて、開催された全国交流集会に、大阪府から、豊中市と千早赤阪村からの二人が参加することになった。友愛活動についてのアンケートの答を送ったのが一月四日、なりゆきとはいえ、なさけなくて、自信が持てなくていつもの私のようにはいかないぞという気がしていた。

それでも何時もしている配食（校区福祉会が作製したお弁当を独居の方に配ってお話し相手をする）では、したり、されたりの関係で面白くないと常々思っていたところ、府老連からモデル地区として補助金が出た時に考えついて「友愛手帳」なるものをつくってみよう！と仲間の四人に呼びかけ、趣意書というか、アピール文をつくって配布し、友愛手帳を作つて、友だち四人か、六人書いてもらおう！と各団体に話しかけた。そのことを、全体会に発表して、おみやげにしようということになって、校区

福祉会の大応援を得て、印刷やら何やら大忙しだった。北は北海道から、南は沖縄まで百十四名、それに事務局が三十五名、なんと最高齢は仙台からの八十九歳の男性で懇親会では大声で歌っておられたのには驚歎！

「在宅福祉を支える友愛活動」の現状と課題とか、その推進方法とか組織づくりとか、「ふれあいサロン」の取り組み方等、いろいろ勉強させてもらった。が、自分の中では咀嚼しきれぬものがあった。しんどいところもあった。

全体会の最後に「大阪府豊中市です」と名乗りをあげて、友愛手帳の淡い若草色の手帳を皆さんにお見せすることができ、見本をたくさんの方が持ち帰られたし、その後も事務局に問い合わせがあることを、ひそかによるこんでいるんです。ハイッ！お

はかさんでした。そのうちに全国的なひろがりを見せてくれるように祈っております。

第五十一回卒業証書授与式出席

定時制振興会会長

岡島 勇

平成十三年度「かがやけるさつき大空」、校歌に見送られて、本学定時制課程の第五十一回卒業証書授与式が、

去る平成十三年二月二十八日午後六時から本校で執り行われ、卒業生の五十一名に、関係校長から卒業証書がめでたく授与された。

特に、働きながら一日の余暇時間をさいての勉学は、経験した者でなければ味わえない感動があったに違いない。人生の苦楽をともにした同僚と迎えたこの一瞬、この喜びはこれからの人生に於いて、良き収穫であったと思われ、また本年卒業の三年制課程代表の矢野和美さんの答辞は、特に注目された。

普通定時制課程は修業年限が四力年となっているが、三力年の修業年限でその間夏のスクーリングでカバーして通信定時制三年制課程で卒業するという卓越した勉学努力により卒業されたこと、第一回三年制課程卒業生十名が居られたことに對して、心からお喜び申し上げます。

定通大阪高校総体でも数々の念願優勝を、特にバスケットボール部が平成十二年度は、念願の優勝旗を手にすることができ、定時制教育の果たす役割の大きさが思われます。

人間は何のために生きているのだろうかということを若い頃はしばしば考えたものでした。

「我思う、故に我在り」つまり人間は思惟すること。ものを考えたり頭の中であらうなことを組み立てる、思索

思索するということが生きていくということなのだ。

人間は存在においてそのことを評価されなければならぬのではないのか、生きていくことがそれ自体がたいへんな作業だからなのです。

生まれてくるということとは、この世の中に自分の意志でなく送り出されてきたということ、そしてさまざまなかたちでの競争社会の中で、自分が意識していない戦いを戦いながら生き続けてきたということ、です。

人間の一生というもの、インドでは四つに分けて考えていた時代があるというふう

に聞きました。まず学生期、社会人となつていく準備期間ということだと思ひます。

二番目が成人に達して家庭をもち、世のため人のために力一杯尽くす、家住期といひます。

三番目が林住期といひて、家庭を離れてひとりで静かに人生というものを、来し方行く末をじっくり考える期間。

そして最後に人間が迎えないければならないのが遊行期といひて、ここではすべてを捨ててガンジス川のほとりへ

死の旅に出かけていくと、遍歴の中で死を迎える。今は長寿社会ですから七十歳まではたらこうという感じなんですけれども。

「人事を尽くして天命を待つ」といふ言葉がありますが、

私はこれを強引に自分流に「人事尽く」とするは天の命なり」と読み変えています。自分はベストを尽くすだけだと思つても、人は必ずしもベストを尽くせるとは限りません。ベストを尽くそうと思ひ立つたということ自体に大きな運命の光ともいふべきものが射している。

さらに三日坊主で終わることも多いのに、それが三日、一週間、一年、二年、四年と続いたということは、自分が頑張つたというだけではない何かがそこにあるのではないのでしょうか。

後から目に見えない力が背中を押してくれた。という感覚が生じてきたとき、すばらしい演技ができるのではないかと思ひます。特にスポーツマンの競技の世界で記録更新できた選手の心の中で感じ取っている。他力というのは、目に見えない自分以外の大きな力が自分の生き方を支えていてくれるんだと。ベストを尽くせるとは限らない。

後ろから目に見えない自分以外の大きな力が、自分の生き方を支えていてくれるんだと。ベストを尽くせるとは限らない。自分以外の他のものが自分という存在を支えている。謙虚に受け取るということが他力の一番根のところにある言葉だろふと思ひます。

卒業生皆様、毎日毎日の暮らしの中で小さな喜びを大切にすることで、二十一世紀

これから訪れるであろう大変難しい時代をくじけずに自分の生命を投げ出したりすることなく生きていくことができるかも知れません。

最後に男女併せて五十一名が卒業し、尚和会のお仲間になっていただくことになりました。よろしくお願ひします。

ある広報委員のつぶやき

高五期 宮口 一郎

新世紀を迎え、尚和会会報も二〇〇一年号の発行となつた。ガリ版刷りの第一号の頃の事情は知る由もないが、

高女一期生の越水会長時代から付かず離れず会報の編集校正に参加させていただいている者にとつては、色々な思いが湧いてくる。

越水会長時代は、適当な打ち合わせ会場がなく、岡町駅前の小さな喫茶店に集まり、毎週のように会長の熱心に引きずられ、編集校正を重ねた。今まで関心の薄かった母校のこと、会員の動静について大いに勉強になった。

その上、終わつてからの友人達との会食歓談も楽しみであつた。思えば、現在の会報の根幹はその頃に出来たものではなからうか。

当時とあまり変わっていない今の内容は、今でも在阪他校のものに比べ遜色ないと思う。

尚和会創成期、会の発足や会報発行に尽力された一期生の皆様が、今年三月までに、相次いで目出度く喜寿に到達された。後輩として心からお祝い申し上げたいと思ふ。

今後は時代の流れに沿つて若い方々にも、創成期以来の先輩方々にも楽しんでいただける会報に育てていきたいと思ふ。

同期会予告

卒業五〇周年記念
〔高三期会〕

桜塚高校卒業五〇周年にあたり左記の要領で記念の三期会を開催いたします。

卒業以来一回も参加されなかつた方々も、今回は是非ご参加ください。懐かしい先生方も越し頂く予定です。

記

日時

平成十三年十月十三日(土)
正午より午後三時まで

会場

大阪梅田新阪急ホテル
二階・紫の間にて

会費

八千円(飲食、写真、他諸経費すべて込み)
記念同期会につき盛り沢山の内容です。お誘いあわせてお越しください。

代表 谷田 探成
本田 陽子

高四期の皆様へ お知らせ

四期会名簿を作成いたします。住所変更予定の方、お友達の新任所をご存じの方は、至急ご連絡をお願いいたします。

来年は、卒業五十周年になりますので、春に記念四期会を一泊で行いたいと思つています。場所は花博が開催された淡路島のリゾートホテルを予定しています。今年九月頃に日程等お知らせします。

連絡先

小川 尚子
〒五三八一〇〇三三
大阪市東淀川区淡路四一四六
TEL&FAX 〇六一六三三二一八三三三

高十一期 還暦記念同期会開催

日時

二〇〇一年六月二日(土)
一三時〜

場所

ホテルアイボリー
Tel.六八四九一一一一

会費

一〇、〇〇〇円
連絡先
吉田 和久
Tel.六八五七一〇三五二

田中 渡
Tel.六八五二二九二三

高校二十三期
卒業三十周年記念同期会
高二十三期 後藤 保二

二十三期生の皆様、お元気ですか。標記の会を左記の通り開催いたします。是非ご参加下さい。なお、案内葉書をお送りいたします。お問い合せは代表理事の後藤までどうぞ。

日時
五月二〇日(日) 正午
会場
ホテルアイボリー

二十五期集まれ！
高二十三期 田中 広和

リン、リン、職場の電話がけたたましく鳴る。丁度今から一年前の平成十二年三月二十一日午前一〇時三〇分ごろのことである。昼食の誘いにしては時間が早すぎる。息子から「合格した。」別に喜ぶでもなく淡々としたものである。今日は高校の合格発表の日だったのだ。桜塚高校「五十五期生」誕生の間である。当初、より進学校(豊中等)への進学を考えていたようだが結局落ち着くところに着いたことになり。鷹が鷹を生むはずがない。数日後今度は家の電話。

「尚和会の会計の小合ですが、二十五期の理事を引き受けてもらえないでしょうか。」という内容の電話である。子供が小学校の時のPTA仲間を紹介らしい。小合と言われども顔が浮かんで来ないが声を聞く限りべつびんさんの声である。優柔不断な私は「うー」と考えている間に強引に押し切られとりあえず五月十三日の理事会に出席することになる。(まるで大助が花子にいじめられているようだ。)また私の大ファンである阪神タイガース元投手の奥田さんが尚和会副会長であり、声の美しかった小合さんの兩名の顔を見たいことや、息子が現役生になったので仕方がないとあきらめることとする。

息子と話をしていると担任の先生は桜塚高校のOBで木谷先生と言うらしいのでそれらしい人を理事会で見つけ話をすると私の大学の後輩であることもわかった。世間は実に狭いものだ。次に憧れの元阪神タイガースの奥田先輩とのお対面。「色の黒いごっついどこにでもいるようなおっさん」である。(先輩、根が正直なものでスンマヘン。小合さんとお対面した感想については今後の付き合いもある。) 理事会が終わってから有志で居酒屋に繰り出しビール等を荻野会長からご馳走になる。奥田先輩の顔を見るだけと思っていたのに飲食の饗応を受けてしまった。荻野会長のやさしそうな人柄にも引かれ仕方がなく一年間理事を務めることにする。

◆尚和会関係◆

尚和会会報を
手にして

高校四期 林 正宏

毎年五月の大型連休の時期になると、尚和会会報が届きます。日頃は、すっかり忘却の彼方にある学生時代が、会報の記事や写真や友人の名前が目に飛び込む時、一瞬のうちに、桜塚時代の思い出を、走馬灯の如く次々と、なつかしく思い出させてくれます。まさに青春回顧便の感触だと思えます。日頃は、慌ただしい日常生活に追われて居るだけに、この一時は、何にも代えがたい至福の時だと思ふ。この幸福感を一年一回でも届けて頂けるのは、尚和会の役員の方々の大変なご努力と並々ならぬ根気と奉仕のお陰と心から感謝する次第です。小生にとつて感謝の意を表明する具体的方法は、ひとえに、協力金(会報代を含む)に協力する事だと思つて、忘れないう間に、連休明けには、まず郵便局へ振込に出掛ける事にして居ります。

送られて来ます。それぞれに、懐かしさや思い出に差はあるものの、全てに出席するのも実際問題難しく、この年になると、協力出来る事は、『会費を払う事』と『すぐ出欠の返事をする事』位が最低の義務だと思つて居ります。母校への愛着や想い出を始め、母校への物心両面での支援の仕方も、卒業以来の濃淡の差があり、卒業以来の歳月や年齢によつても、千差万別の事だと思ひますが、これらのさまざまな思いの中に、尚和会の運営や尚和会会報の発行を継続発展させて行く事は、本当に大変な事業だと役員の方々に、感謝と同情を禁じ得ません。これからも、頑張つて下さいとひたすら、お願いするのみです。

「尚和会会報」に
ついで企画・提案
高三十七期 高崎 健治

目的として

- ① 今までの広報の活性化、マンネリ化の打破。
- ② 新しい、若い世代の購買層の確保。
- ③ 卒業した母校にあらゆる方面の人から関心を持つていただくということ。

その必要性として

尚和会という母校のつながりが私たちの年代の方は、年配の方々のような強いつながりが無くとも薄っぺらな

ものになってしまい、私たちの世代が生活、子育て等に一段落したとき、必ず卒業した学校、同窓生に懐かしさをおぼえる時がくると思ひます。その時、こういった同窓会や広報誌が無ければ、単純に情報交換や同期会等ができなくなつてしまふという恐れがある。

解決案として

広報新聞の内容をがらつと一変してしまえば、やはり今までの購買層方々のご意見、ご不満等が発生すると感じます。

したがって、私たちの年代の若い層にもう少し関心を持つてもらふように、紙面の一部、例えば1から2ページを私たちの年代のページにして戴いて、興味、関心を持つていただき、次の号につなげていけばよいと思ひます。

具体案として

- ① ホームページの絶対的な必要性

先日もご意見させていただきましたが、私の経験上のお話でいふ前のお話なのですが、最初にパソコンを購入し、ネット上に回線をつないだときに大体自分の母校とかを検索したりしていました。

私たちの学校が今どうなっているのかとか、卒業生にはどのような人たちがいらつしやるのだろうかとか大変興味を持ったものです。私だけかも知れませんが、私が特に推しているのは

Eメールのことです。今、広報の方々が原稿集めに大変かもしれませんが、簡単なメールボックスをページ上に設置し、それを管理し面白い投稿等あった場合はデイスクに保存していただくとともに活性化できると考えています。

②新聞の記事内容の改革
これは、若い層の人々に関心を持ってもらうために、レイアウト等も6段組等にこだわらず色々工夫してみればよいと思います。記事内容も感想原稿だけでなく例えばコーナーとして

あの先生はいずこへ：
これはお世話になった先生の消息を調べ、その先生の近況報告等載せてみる。

私たちの進路珍道中：
学校を卒業してからの自分の考えていた夢の進路を現実と照らし合わせて面白く紹介していただき、在校生や卒業したての人たちに見てもらいたい。こんな先輩いてるんやで！
これは学校を卒業されて色々なところで頑張っている人たちに取材し、アドバイスや体験記等を記載していただく。私たち今こんなことやっているねん：
今いろいろなところで商売や会社の宣伝とかして戴いて、母校のよしみのプレーンを作っていたいたり、同じ趣味仲間を作っていたりというコーナー。お店の宣伝や、その他いろいろ載せれば関心

も出てくると思います。
誰か知ってますか。初恋の人：同期の卒業生や初恋の人の消息なんかを情報交換したりするコーナーです。
以上まだまだ案は尽きませんが、これを実行するとなればやはり最初は尚和会のホームページ立ち上げだと思っています。
ご参考までにご笑読いただければ幸いです。

◆高崎氏のご提案に対して
広報委員会では検討を重ね、意見をまとめ具体案を役員会に提案、理事会にて審議いただくよう素案づくりを進めたく考えています。
広報委員長 田中 渡

◆教職員人事異動◆

(平成十三年度)

全日制課程

退職

城 治明 (事務部長)

(関西福祉科学大学高校へ)

西尾 臣示 (教諭・数学)

(桜塚高校全日制特嘱へ)

赤羽根充男 (教諭・理科)

(桜塚高校全日制若年特嘱へ)

徳山美智子 (養護教諭)

(愛知女子短大教授へ)

転任

岡田 明彦 (教諭・社会)

(池田北高校へ)

工藤 高久 (教諭・数学)

(箕面東高校へ)

高橋 競 (教諭・理科)

(北千里高校へ)

古川 良祐 (教諭・保健)

着任

(布施北高校へ)

関 省子 (教諭・英語)

(福井高校へ)

金丸 義和 (事務部長)

(四条畷高校事務部長より)

村川 義典 (教諭・社会)

(能勢高校より)

吉田 修 (教諭・数学)

(茨木西高校より)

松井 常喜 (教諭・数学)

(少路高校より)

中村 幸雄 (教諭・理科)

(吹田東高校より)

浦田登志子 (教諭・理科)

(渋谷高校より)

野村勝太郎 (教諭・保健)

(渋谷高校より)

望月 浩平 (教諭・英語)

(箕面東高校より)

佐藤 容子 (養護教諭)

(保健体育課指導主事より)

定時制課程

退職

山岸 稔 (教諭・理科)

(桜塚高校定時制特嘱へ)

大河内康子 (教諭・国語)

(桜塚高校定時制若年特嘱へ)

転任

倉中 篤子 (課長補佐)

(池田北高校事務長へ)

寺本 昭雄 (主査)

(西野田薬品学校全日制主査へ)

転入

薄木 鈴江 (課長補佐)

(高槻南高校主査より)

山東 篤 (主査)

(中央卸売市場主査より)

森尾 俊二 (教諭・理科)

(池田高校より)

上原 隆 (教諭・国語)

(池田北高校より)

馬場 将夫 (教諭・英語)

(茨木東高校より)

各 期 連 絡 先

期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話
女1	越 水 ユ リ	06-6852-8755	高21	山 本 登志恵	06-6924-3544	高49	田 村 淳 一	0740-36-0800	定26	片 山 勝 重	06-6843-6443
女2	北 川 富美子	0798-74-3024	高22	平 本 裕 一	06-6855-2482	高50	岡 本 修 也	06-6399-6762	定27	稲 井 幸 雄	0727-28-0955
女3	松 尾 郁 子	06-6336-1765	高23	後 藤 保 二	06-6373-7380	高51	小 寺 勇 人	06-6848-7084	定28	真 下 保	06-6385-6190
女4	小 林 三七子	0797-71-1064	高24	梅 田 純 子	06-6329-6309	高52	末 石 寛 幸	06-6393-9104	定29	寒 川 悟	06-6607-0580
女5	加 藤 恵 美	06-6872-6248	高25	原 慎 寿 子	06-6849-9986	高53	平 嶋 大 輔	06-6862-9816	定30	大涯地 みゆき	06-6333-5761
女6	青 木 操 子	06-6843-2552	高26	金ヶ江 裕 之	06-6852-1224	定3	上 田 孝 彦	06-6853-2162	定31	松 野 妙 子	06-6863-2565
女7	黒 田 長 子	06-6854-5432	高27	木 谷 孝 志	0726-27-9059	定4	府 上 恵 二	06-6852-7122	定32	的 場 章	06-6331-2639
女8	中 村 陽 子	06-6844-1570	高28	市 田 隆 士	0595-52-0715	定5	橋 本 昌 員	06-6854-0234	定33	池 上 敏 雄	06-6848-7971
高1	安 達 良 子	0727-21-3901	高29	山 沢 健 二	06-6885-0370	定6	木 田 隆 幸	06-6864-2452	定34	清 水 美 佳	0727-61-3323
高2	菊 池 芙 美	06-6852-4117	高30	木 村 慶 子	06-6853-9213	定7	都 倉 昭 次	0797-84-7663	定35	浜 田 清 文	06-6864-6366
高3	谷 田 探 成	06-6314-0550	高31	榎 香世子	06-6393-7216	定8	田 邊 昭 夫	06-6843-0952	定36	内 田 好 史	0727-23-9531
高4	中 右 吉 信	06-6855-5372	高32	竹 田 伊都子	06-6332-4076	定9	大 谷 収	072-844-2311	定37	渡 部 二 郎	06-6863-0058
高5	宮 口 一 郎	06-6852-4859	高33	池 本 清 人		定10	長 野 昌 子	06-6844-0473	定38	中 村 保	06-6332-7703
高6	一 色 貞 輝	06-6852-3962	高34	山 口 誠	072-894-1848	定11	永 井 敏 輝	06-6852-0333	定39	森 本 真裕美	06-6849-7859
高7	伊 藤 光 弥	06-6855-4881	高35	川 嶋 道 代	0727-29-6099	定12	笹 部 修 造	06-6852-0475	定40	二 宮 千 夏	06-6333-1209
高8	森 田 司 朗	06-6872-3329	高36	安 藤 昌 博	06-6832-7930	定13	中 岸 澄 江	06-6843-5737	定41	奥 田 康 弘	06-6388-7339
高9	安 浦 杲	0727-37-0068	高37	高 崎 建 治	06-6623-6801	定14	杉 本 土 生	0727-28-1497	定42	菊 永 以 言	06-6853-6877
高10	唐 渡 吉 則	0727-52-4548	高38	堀 田 繁	06-6841-0598	定15	北 浦 修	06-6333-4833	定43	山 田 辰 典	06-6333-1785
高11	田 中 渡	06-6852-2923	高39	須 崎 康 広	0727-52-6441	定16	森 島 作 蔵	06-6857-6219	定44	押 野 誠	06-6845-9523
高12	谷 木 光 一	06-6855-5858	高40	浅 谷 美 和	06-6862-6896	定17	前 田 政 治	06-6855-8451	定45	青 木 宏	06-6332-5370
高13	細 川 和 彦	06-6849-6879	高41	坂 口 大 介	06-6303-4831	定18	中 島 健 二	0727-22-8153	定46	岡 田 智 寛	06-6333-5996
高14	佐 藤 勝 哉	06-6849-0663	高42	東 紀 江	06-6371-5696	定19	飯 田 悦 弘	06-6855-3440	定47	桑 原 丞	06-6852-0305
高15	大 畠 光 昭	06-6841-8135	高43	横 尾 さち子	06-6854-0026	定20	櫻 原 洋 一	0727-21-1124	定48	早 田 愛	06-6846-0040
高16	中 務 公 子	06-6858-4509	高44	倉 谷 実	06-6302-2184	定21	児 谷 幸 子	06-6862-1946	定49	高 木 一 栄	0727-62-3060
高17	福 本 育 馬	06-6333-6636	高45	盛 一 聡	0727-21-2853	定22	西 田 惣 一	06-6850-2955	定50	福 永 敦 哉	06-6862-7542
高18	北 川 悟 司	06-6843-1336	高46	栗飯原 敬 一	06-6833-9179	定23	三 町 良 夫	06-6841-3792	定51	徳 留 三 香	06-6866-6994
高19	奥 田 敏 輝	06-6843-9397	高47	吉 村 浩 一	06-6336-0300	定24	日紫喜 富 美	06-6992-1001	修1	矢 野 和 美	0771-28-3775
高20	郡 守 男	0795-65-2627	高48	今 村 孝 宏	06-6303-2655	定25	大 町 裕 次	06-6862-7083			

お便りから

高定七期生

佐々木 好一

平成12年度会報を読み終
わってよい紙面に出会えたな
と、感じました。久しぶりに
読みました。13年度も送って
下さい。

高三五期生

横山 淳子

数年前に豊中に戻って参
りました。母校の前を通るた
び学生時代を思い出します。

(旧職員)

納 祐子

二〇〇〇年三月定年退職
しました。桜塚在職中は皆様
に親しくしていただきありが
うございました。

高女一期生

近藤 英子

体調悪く失礼して参りま
した。今後ともよろしくお願
い致します。

高女二期生

岡村 純子

今春、副会長吉田様には
会報でお世話になりました。
尚、来春、4月に住所が変わ
りますのでその折も、お手数
ですがどうぞ宜しくお願い致
します。

高女三期生

浜田 綾子

何時もたいへんお世話に
なります。会報を楽しみにし
ております。卒業して五十余
年七十歳を越えてもまだ女学

生気分です。戦時中「明朗・
敬虔・奉仕」の校則に培われ
私の人生もその道を歩みまし
た。

高七期生

堀江 哲郎

七期同窓会でのこと。二
次会で社交ダンスに興ずるO
君より、ええ企画との笑顔。
参加できなかったY君を思い
つつ、涙を禁じ得なかった。

高七期生

小川 晴紀子

8月中旬に送られてきま
したので、遅くなりました。
有料は大賛成です。お世話様
です。

高七期生

中杉 みつ子

残暑の中、事務処理が大
変でしたことでしょう。お世
話さま、ありがとうございます
でした。遠い昔をなつかしく思
い出しました。

高七期生

富田 あや子

高校7期生の同窓会御盛
会に終わり御苦労様でした。
お写真懐かしく拝見していま
す。幹事の皆様にもよろしく
お伝え下さい。

高八期生

阪本 和子

会報のクラブだより「山
岳部」高谷善雄先輩のお便
り大変懐かしく拝見しまし
た。100歳間近の後藤先生
を囲んだOB会、五十七回に
も達しているとは!! 機会
あれば出席したいと切に思い
ました。

旧職員

奥村 朗子

二〇〇〇年も不穏の中に
はや六月入り、心痛みます。
毎々御丁寧な御挨拶と共に会
報ありがとうございます。太
田君のスケッチの表紙、味わ
いがあって感動しました。大
規模改修のアイデアも楽し
みでございます。音楽はじ
め芸術性の高い会報、誇りに
存じております。

私は一年足らずのお勤め
で仲間入りさせて頂いていま
すが受け持ったクラスは通学
区域が限定された昭和十六年
入学の方、豊中、箕面、池田
在住のトップレベルの方々ば
かり、素晴らしい生徒さんで
した。いろはにほへと六組あ
り、へ組だけが二階の教室。
関西調で「へー」組と発音さ
れるのはいたましい思いでし
た。

会費郵便局払い込みすま
せておきました。今後のグロ
ーバル同窓会へ発展とユニ
クな会報記事に声援を送りま
す。

◎お詫びと訂正

二〇〇〇年号（昨年）で
表紙の画の作者名に誤りがあ
りました。

画：高十一期・太田直武氏
は太田尚武氏の誤りでした。
謹んでお詫びと訂正を申
上げます。

平成十三年度
評議員会及び
理事会予定表

●評議員会

第一回

十三年

九月一日(土)

会費制(会場未定)

第二回

十四年

三月三十日(土)

尚和会議室

●理事会

第一回

十三年

五月十二日(土)

尚和会議室

第二回

九月一日(土)

会費制(会場未定)

第三回

十一月十日(土)

尚和会議室

第四回

十四年 一月二十日(日)

新年理事会

会費制(会場未定)

第五回

三月二十三日(土)

尚和会議室

平成十四年度

総会

五月十九日(日)

第三日曜日(会場未定)

◆募 集◆

表紙の画や写真を募集し
ています。桜塚高校にちなん
だものなら何でも結構です。
お問い合わせは、
会報編集責任者・田中渡
(TEL.06-6852-2923)
までお願いします。

●編集後記●

三月当初では原稿の集
まりにやや不安を感じてい
ましたが、半ばを過ぎる頃
から多くの方から原稿をい
ただき紙面の余裕がなくな
りました。残念ながら一部
の方の原稿を掲載できませ
んでした。紙面を借りてお
詫びいたします。
読みやすく楽しい会報
をめざして新しい企画など
も検討しています。ご意見
や情報などの寄稿をお待ち
しています。

尚和会 平成12年度決算報告

【収支決算】(自:平成12年4月1日 至:平成13年3月31日)

(単位:円)

科 目	予 算	決 算	差引過不足	備 考	13年度予算
収入の部					
入会金	1,660,000	1,664,000	4,000	416名×4,000円(全342,定74)	1,616,000
会報年会費	1,000,000	1,444,000	444,000	1,444名(償1,186+贈258)	1,000,000
尚和会協力金	2,000,000	1,832,935	▲167,065	940名(振833+現107)	2,000,000
広告収入	60,000	90,000	30,000	3件	60,000
利息収入	6,000	6,560	560	銀行預金	7,000
名簿発行準備金繰入					1,550,000
雑収入	360,000	375,000	15,000	CD359件 各簿5件	0
計	5,086,000	5,412,495	326,495		6,233,000
支出の部					
事務費	250,000	242,027	7,973	事務用品・印刷代他	250,000
振込手数料	70,000	92,860	▲22,680	郵便局支払	100,000
通信・運搬費	200,000	161,728	38,272	葉書・宛名シール・切手代他	300,000
会合費	400,000	456,136	▲56,136	理事会及び各委員会会合費	500,000
庶務費	100,000	67,736	32,264	卒業お祝い他5件	100,000
会館維持費	30,000	19,950	10,050	スリッパ50定@399円	30,000
卒業生記念品代	50,000	47,355	2,645	卒業証書入れ410本@115.5円	50,000
会報発行費	1,400,000	1,287,492	112,508	7,000部	1,500,000
総会費	700,000	530,658	169,342	アトラクション・雑費	700,000
東京支部援助金	150,000	150,000	0		150,000
尚和会事業積立金					1,550,000
予備費	200,000	52,920	147,080		400,000
計	3,550,000	3,108,682	441,318		5,630,000
1.差引当期収支	1,536,000	2,303,813	767,813		603,000
2.前期繰越金	768,278	768,278	0		
3.(1+2)合計	2,304,278	3,072,091	767,813		
4.尚和会積立金繰入	0	2,000,000	2,000,000		
5.次期繰越金	2,304,278	1,072,091			

【貸借対照表】(平成13年3月31日現在)

借 方	貸 方
現 金	203,232
普 通 預 金	2,794,427
定 額 貯 金	9,180,000
定 期 預 金	7,880,046
合 計	19,857,705
入会預り金(全353,定51)	1,616,000
尚 和 会 積 立 金	11,000,000
名簿発行準備金	1,550,000
尚和会事業積立金	4,619,614
次 期 繰 越 金	1,072,091
合 計	19,857,705

以上報告いたします。 監査の結果誤りのないことを報告します。
平成13年3月31日 平成13年3月31日
財務担当副会長(15期) 大畠 光昭 会計監査(5期) 毛利 正幸
会計(19期) 志賀 順子 会計監査(14期) 吉田裕理子
会計(25期) 小合 孝子

上田ヤスエ 上脇眞佐子 友眞さは
山口恭子
千円 伊藤千恵子 大浜多美子
小串みよ子 岡村純子 森山和美
●高女三期
五千元 梶田美智子

樋口文子	淡輪美津子	渡辺康子
千円	山木悦子	竹内宣子
河田みちる	野村道子	杉山玉緒
小池節子	玉野志津	荒木真智子
服部智恵子	増田トシ子	矢野愛子
通山千鶴子	徳田八重子	増山和子
小山栄子	岡澤敦子	大塚淑子

●高二期

六千円	太田靖子
四千円	石川照子
三千円	阿萬紀美子
石毛納子	井上明子
大久保緑	廣田智恵

六千円	岩崎幸夫	上田政国
大槻和夫	木田久也	林達雄
毛利正幸	北之坊英美子	
佐藤良子		
五千円	瀬尻修三	永田俊夫
宮口一郎		

松浦峻
仁木悦子
原田秀子
増田祥子
中杉みづ子
辻本萬喜子
築坂加寿

森田千加子
宇都宮玲子
矢延一恵
安田明子
北川弘子
山西恵子
錦野幸子

赤穂トモ
今枝和子
岩瀬光子
大谷洋子
玉井ハツ子
田田雅子
中田敦子

千円
池田茂
藤野鐵造
先川照子
竹若明子
山田宏子
岩崎淳
小林謙一
宇野和子
山口寿三枝
倉口豊美子
矢野英子
門脇義
平田亘昇
北安宏
淺野節
山上悦

[illegible]

平成十二年度活動報告について

行事担当副会長 奥田 敏輝

二十一世紀という新しい世代の幕開けを迎えはや数ヶ月が過ぎました。前世紀が波乱の多い世紀でありましただけに新世紀は静かなよい世紀でありますことを心よりお祈りしたいと思います。尚和会の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げますとともに日ごろより当会の諸活動に多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、前年度の行事委員会の活動について報告させていただきます。平成十二年度の総会、懇親会は五月二十一日(日)に豊中のホテルアイボリーにて開催されました。会長挨拶、来賓祝辞、三名の交代されました旧役員の方々に感謝の花束贈呈があり、活動報告に入りました。最初に各担当副会長より十一年度の活動報告及び決算報告がされ、続いて十三年度の事業活

桜塚高校 尚和会 懇親会



近年若い方の参加も増えつつあり、高女時代の方々を始め昨年も多数のご参加を頂きましたが、今年の総会、懇親会にも多数のご参加を頂き益々盛会になりますよう御協力の程よろしくお願いいたします。

動予定と予算案の報告があり総会は終了しました。引き続き同ホテルのオーキッドホールにて懇親会が開催されました。会員90名、来賓12名合計102名のご参加をいただきました。パーティが始まりました。さすがに共に学び遊んだ同窓生であり、和気合々とお酒を飲みながら料理を味わっていた。終始和やかで明るく楽しい雰囲気でした。パーティの途中に今回は高校十七期の田中



の田中

(旧姓越田) 幸子さん出演のアトラクションが始まりました。十年前より始められ現在は各方面で活動されているというシャノンを数曲披露していただき、会場内全員感心しながら熱心に聴き惚れていました。アトラクションの後は毎年恒例の福引きで楽しみ最後は全員で校歌を合唱し閉会となりました。

二〇〇〇年十一月十九日(日曜日)「第二回 尚和会東京支部総会・懇親会」開催

尚和会東京支部長 井上 眞一(高七)

※第三回は二〇〇二年に開催予定



支部会則に則り二年毎に開催される支部総会が街路樹の葉も疎らになった晩秋十一月十九日、第一回総会と所も同じ品川のホテルパシフィックで開催され約六十名程が参加しました。今回は、(一)現職の校長先生にご出席をお願いし、校舎改修や最近の母校の様子、二十一世紀社会での「桜塚」の特色づくり、などのお話を伺った。激しく変化する社会の中へ送り出す生徒

徒に対して、出来るだけ好ましい学習環境を整えてやりたい、というお話には、日頃、ともすれば母校との距離感(西と東)に甘んじてしまいがちな、我々にとって、「母校との絆について」を考えさせられるものがあつた。(二)本部より初めて荻野会長が出席され、尚和会の「現状の課題」のひとつとしての会発展に欠かせない東京支部の活性化への期待と確信、また、本部・支部役員交流会の継続、更には、同期会開催への支援助成金制度の確立(大いに期待)への取り組み等、ご挨拶を頂いた。本会で特筆すべきことは、支部活動のモットーとでも言うべき『関東地区に於ける同期会開催のプロモーションにより同窓会の輪を拡げよう』に關して、文字通り率先垂範して、当日の会場で同期会を実施して下さった高女四期(お世話役、永井徳子)の方々の事です。大阪から、新潟から、七名の方が集い、昔話を花を咲かせていらつしやいました。また支部では会報の有料

制に關連して、その購読促進の一助とすべく「申込手続代行」を行い、約百名弱の方が利用されました。



懇親会ではアトラクションとして、今回も同窓生に出演をお願いしました。十七期生の田中幸子さん、五月の本部総会にも出演されました。参加者との合唱もあり明るく楽しいショウタイムでした。また参加者の一言メッセージでは、在校時代のクラブ活動の思い出と共に「クラブOBの集い(茶道部)」の呼びかけもありましたよ。出席者、高女四一八期(十名)、高四一六期(六名)、高七期(十一名)、高八一十期(九名)、高十一一十六期(七名)、高十七一十八期(五名)、高二十一二十七期(五名)。第二回では前回出席のなかった卒期の方の参加がありました。また、同期会の新たな開催もいくつか実施されたと聞いています。発足間もないとはいえ四年が経過しました。その活動状況は、まだまだ活性化してきているとはとても言えません。同窓会には「参加する事」に意義があると思います。物事には三年目とか、三回目には何か変化の兆しがあると言われています。

支部総会・懇親会も二〇〇二年には第三回目となり、然も二十一世紀初の集いとなります。今年の初めにも幹事の方々と、過去を振り返っての反省やら、新しい世紀を迎えての支部の在り方など色々とお話をしましたが「一人でも多くの同窓生が集い、語れる場造り」、「一つでも新しい同期会が生まれる基盤作り」などを引続きの目標として努めていくことに致しました。今後共、皆様のご協力とご支援をよろしく願ひいたします。

終わりに、当会開催に際しまして、前回にも増して多くの同窓生(三百数十名にも及ぶ)の方々から、支部運営へのお励ましとご協力を賜りました。支部発展の為有効に活用させていただきます。支部を代表して厚くお礼申し上げます。

●お知らせ
二〇〇一年四年度より、支部事務局が移転しました。連絡先につきましては当面の間、左記とさせていただきます。

連絡先
〒二五三〇〇五三
神奈川県茅ヶ崎市
東海岸北三十五一二七

東京支部長 井上眞一
TEL・FAX
〇四六七一八三二四〇四